

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 21年 3月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200624
法人名	有限会社 かみさと介護ステーション
事業所名	グループホームかみさと
所在地	〒369-0305 埼玉県児玉郡上里町大字七本木291-1 (電話) 0495-35-3483

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月12日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,800 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	550 円	おやつ	150 円
または1日あたり 1,400円				

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	くぼた医院、上里歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、JRの駅から徒歩で20分、関越高速道のガードを抜けると消防署に隣接して建っている。木造平屋建てのモダンな家で、木製テラスが張り出し、そこに洗濯物が干されていて、一般家庭のような温もりを感じる。また、施錠することなく自由に出入りができる開かれたホームで、玄関を入ると共用の部屋に通じ、キッチン是对面式で管理室から目配りができるように配慮されている。管理者・職員は入居された方達との縁を大切に、自分がされたら嫌に思うことは絶対にしない信念を共有している。共用の部屋では、特注の大きな丸テーブルを囲み、大きな輪になってゲームや歌、体操に興じ、殆どの利用者が一日をここで過ごしており、利用者の表情が明るい。利用者の家族から寄贈されたお雛様が飾られ季節感もあり、一日に必ず散策をしており地域との交流も多く、恵まれた自然環境の中でゆったりと利用者が生活している落ち着いたホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画については、家族の意向を聞き計画作成にあたってあり、記録の中にアセスメントを検討したものを残すなど努力の跡がみられる。災害対策については、防災訓練を実施し、地域との連携もとれていた。栄養摂取や水分確保の支援については、バランスのとれた食事への気遣いがなされており、摂取量の目安にするため計量に工夫するなど、改善の跡がみられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の検討については、各職員が意義を踏まえて話し合い、改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、前年と同様に2か月に1回のペースで開催されている。行政や地域包括支援センターの職員などによる幅広いメンバーの参加には至っておらず、また会議の内容が記録されていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時間に決まりがなく、24時間対応している。また、月1回利用者の生活状況を手紙に書き、写真を添えて家族へ送付するほか、家族が意見や苦情を言えるように相談窓口を知らせているが、特に苦情や意見の申し立てがない。今後はホーム内における意見箱の設置も検討していく方針である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>創設者が地元の方であり、地域の人との親しい結びつきで、地域の交流がスムーズに行われている。ボランティアとの交流や児童による訪問、地域の行事への参加、日課の散歩での地域の人との立ち話など、望ましい姿で日常生活が送られている。また、目の前にある消防署は、防災の心強い味方である。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、『和』の一字が額に入り掲示されている。地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを具体的に作り上げて、利用者との縁を大切に、根底に流れる『和』には地域の輪の中に仲良く入れてもらえるようにとの願いも込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の立場に立ったケアを心がけ、一人ひとりとの縁を大切にしている。日々の申し送りやケース会議の中でもホームの基本理念に立ち返って共有を図るとともに、常に利用者本位のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人達が気軽に立ち寄ってくれたり、近くの小学生による訪問等もある。また、日課の散歩の途中で野菜を頂いたり、ボランティアの輪も広がっており、交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員一人ひとりが評価の意義や内容を踏まえて実践に取り組んでいる。外部評価の結果における改善点についても話し合いを持ち、確認をしてサービス向上に励んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、前年と同様に開催されているが、行政や地域包括支援センターの職員などによる幅広いメンバーの参加には至っていない。また、会議内容の記録が書かれていない。		運営推進会議の意義の理解を深め、幅広いメンバーの構成により検討事項や懸案事項について話し合い、会議内容を具体的に記録に残して、今後のサービス向上に活かしていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口にはこまめに足を運び、十分連絡が取れている。時にはメールを活用するなど、情報や意見の交換を通じて連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時間に決まりがなく、24時間対応している。また、月1回利用者の生活状況を手紙に書き、写真を添えて家族へ送付している。金銭管理については自己管理をしてもらい、できない場合は施設が出納管理している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情を言えるように、相談窓口を知らせているが、特に苦情や意見の申し立てがない。今後はホーム内における意見箱の設置も検討していく意向である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が生じた際は速やかな補充を心がけ、利用者に細心の気配りをしている。職員の異動は殆んどなく、利用者は職員との信頼関係が保たれているため安定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	要望もあることから内部研修や実技研修に傾きやすいが、外部研修の重要性も理解している。開かれたホームとなるよう外部との連携を図り、質の向上を目指して外部研修への参加も心がけている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会へ加入し、情報を得るようにしている。また、地域のグループホーム間での情報交換、あるいは同業者との交流の機会をつくり、それらの活動を通してお互いに質の向上に努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して入居できるように、見学やお試し入居を受け入れている。ホームの環境に馴染んでもらい、家族、利用者が共に納得した上で入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴の中から利用者の得意としていることや趣味を把握し、できることは利用者によってもらい感謝の言葉を伝えている。また、職員が利用者から教えてもらうこともあり、互いに支えあう関係を作っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのさりげない言葉の中から、思っていることや、やってみたいことを汲み取り、日々の暮らしの中で活かせるようにしている。外食をしたいとの声が聞こえれば相談をして外食に出かけたり、お花見がしたいとの希望を取り入れるなど、意向の把握と実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の記録だけにとどまらず、アセスメントが介護計画を作り上げる上で大事であることから、個々の記録の中にきちんと残し、計画作成に当たっていくように心がけている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に応じた見直しはされているが、計画期間が過ぎているものもある。		利用者の変化に応じて、個々のアセスメントから全職員で意見交換を行い、本人や家族の要望と医師からの助言を含めて見直しがされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の資源を利用して老人福祉センターへ遊びに行き、地域の人達と交わることで、ホームと地元の人との交流が広がっている。買い物や外出の支援、家族の状況に応じて通院の送迎の対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診している。家族が対応できない時は職員が対応し、利用者や家族が納得できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで最期を迎えたいとの利用者の希望を受け入れて、2名の方を訪問看護と医師の往診により看取りを行った。全職員が献身的に世話をしたため、終末期の共有がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレにはセンサーをつけて、さりげなく声がけをして対応し、何事にもプライドを傷つけない気配りをしている。個人情報の取り扱いにも全職員で注意を払い、帳簿もきちんと保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有スペースで身体を動かす体操をしたり、歌を歌ったり、脳の活性化を目指してゲームで楽しむ等の時間も取り入れている。一日の流れはあるが、個人の時間も大切にしており、できるだけ希望にそった生活を送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝える利用者には厨房に入ってもらい、頂き物の野菜をふんだんに使って、バランスの良い食事をしている。特注の丸い大きなテーブルを囲み、職員も介助しながら一緒に食べており、大家族の食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、午後4時から入浴としているが、希望に応じた入浴支援も行っている。時には花湯・ゆず湯などを取り入れて、入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意とすることを把握し、自由に好きなことをしてもらい楽しめるように支援している。毛筆による写経、針仕事、塗り絵など得意分野で力を発揮してもらうことで、その人の生きがいにつながっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ散歩に出かけており、地域の人とも顔馴染みになり、農家から直接野菜を頂くこともある。買い物の希望があればいつでも支援をしており、また外食に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は一切していない。小学生の子供達が立ち寄って遊んでいくこともあり、それが利用者の楽しみにもつながっている。ボランティアの訪問も多く、地域との自由な交流を目指している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの庭を隔てた目の前に消防署があるため、協力体制はできている。消防訓練も積極的・協力的に実施でき、地域の人も協力も得られた。地震対策における備蓄について再検討していく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は一人分ずつ計量して摂取量の目安にし、旬の野菜が頂けるため蛋白質・脂質等バランスのとれた食事になっている。水分量についても、当日の当番職員が個々に記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入りドアを開けると共用の部屋が大きく広がり、対面キッチンと管理室から見渡せる。南側はガラス戸となっており、木製のテラスへと出られる。日当たりがよく、お雛さまが飾られ、季節感が出ている居心地の良い空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側と東側に居室があり、日当たりがよい。廊下を挟んで北側に、トイレ・浴室を配置している。各居室には、押入れが設置されているので家具の持ち込みは少ないが、シンプルな中に写真・花・ケース入りの人形等が飾られ、個性のある居室となっている。		